

目次	写真館	255
	妙高山山頂の将軍地蔵に着く地衣類／今井邦裕	255
	マツゲゴケを住処とする尺取虫／小林義弘	256
	黄色いウメノキゴケ科葉状地衣3種（しかも3属）／原田 浩	257

写真館 Photo Gallery

妙高山山頂の将軍地蔵に着く地衣類

Lichens found on a Shogun-jizoh Statue at the top of Mt. Myoko / by IMAI Kunihiro

今井 邦裕：神奈川県川崎市

2005年11月2日・3日、1泊2日の小屋泊まりで新潟県にある火打山と妙高山に行ってきました。小雪の舞うあいにくの天候でしたが、妙高山の南峰山頂（2454m）に鎮座する「将軍地蔵」とよばれる石像に、鮮やかなオレンジ色の地衣類が生えているのを見ることができました（図1、2）。写真を千葉県立中央博物館の原田先生に見ていただいたところ、オオロウソクゴ

ケ属 *Xanthoria* であることが分かりました。

現場で計測しなかったので正確ではありませんが、地衣体の直径は20mmほどだったと思われます。碑文には昭和17年（1942年）に建立されたとあるので、最大でも60歳程度ということになるのでしょうか。地蔵の材質等を妙高市観光協会に問い合わせましたが、詳細は分かりませんでした。



図1. 妙高山南峰頂上の将軍地蔵。オレンジ色の地衣類が点在している。



図2. 将軍地蔵に生えていた
オレンジ色の地衣類はオ
オロウソクゴケ属
*Xanthoria*だった。

* * * * *

マツゲゴケを住処とする尺取虫

A caterpillar among thalli of a foliose lichen, *Rimelia clavulifera* / by KOBAYASHI Yoshihiro

小林 義弘：神奈川県平塚市

こちらのパソコンの中を整理していたら、変な虫が写っていましたので、お届けします。

これは拙宅の庭にある直径約50cmの落葉松の切り株の地上高1mに生えているマツゲゴケ（群生）の中にいました。確かにマツゲを喰っているようでした（残念ながら写真なし）。ひっくり返すとピンク色の足があり、動きはすばしこく、尺取虫のような動きをしました。この写真は本人を切り株の端面に引きずり出して、写しましたが、マツゲゴケの方へ急いで帰って行きました(図1)。その後は行方不明です。

千葉県立中央博物館の原田さんによると、どうもシャクガ科の蛾の幼虫らしい。体の表面は、おそらくマツゲゴケの粉芽とのこと。

図1. マツゲゴケに帰って行く尺取虫。
2005年6月29日撮影。



* * * * *

黄色いウメノキゴケ科葉状地衣3種(しかも3属)

Three yellow Parmeliaceous foliose lichens growing side by side / by HARADA Hiroshi

原田 浩：千葉県立中央博物館

このようなチャンスはそうそうあるものではない。これを見つけた私は、思わず「おう」と声を上げ、じっくりと写真を撮ることになった。

今年の11月、ハリガネキノリ属の調査で入笠山を訪れたのだが、そのついでに長野県川上村、いわゆる奥秩父に宿を取り、近くの沢沿いの林道を辿っていた時のことだった。林道脇の花崗岩に三つの大きな黄色っぽい地衣類が三角形に並んで生えていたのを見つけたのだが(図1)、その3つが別属だったのだ。

図1を見るとおり、上の個体はやや黄色があせていて、裂片が狭い。左右の個体は黄色が比較的鮮やかで、左の個体のほうがやや裂片の幅が広いといったところ。この

写真だけで同定しようと言うのは厳しいが、何となく判った方もおいでかもしれない。

では、次のページの図2をごらんください。上のが図1の上の個体、左下は図1の左、右は図1の右の個体である。

それでもなかなか難しいので、更にヒントを。左の個体は地衣体背面に粉芽をつけているが、これはバスターールが粉芽化したもの。右の個体は左の個体に良く似ているが、裂片縁部に沿って粉芽塊をつけている。上の個体は裂芽をつけている。



図1. ウメノキゴケ科の黄色い葉状地衣3種。奥秩父の花崗岩上に生育していた。



図2. 黄色い葉状地衣3種のアップ。上は図1の上の個体，左下は図1の左，右下は図1の右の個体。詳細は本文を参照のこと。



最後に同定結果を。左下の個体は冷温帯を中心に広く分布するキウメノキゴケ *Flavoparmelia caperata*, 右の個体はヒメキウメノキゴケ *Flavopunctelia soledica*, 上の個体はクワバゴケ属 *Xanthoparmelia* (属までしか同定していない) である。ヒメキウメノキ

ゴケは日本では奥秩父周辺のみには知られていない稀産種である。通常はカラマツなどの針葉樹の幹や枝、時に広葉樹に生えるが、このように岩上で見つかったという記憶は無い。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 62, p. 222 of this publication.

- Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 72, pp. 255-258; eds. Harada H., Okamoto T., Kinoshita Y. & Tanahashi T., published by the Japanese Society for Lichenology, 22 Nov. 2006.

日本地衣学会ニュースレター 72号

発行日：2006年 11月22日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2006 日本地衣学会 (© 2006 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。